

## シリーズ

## 私の森語り

もりかた

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。



## 「信州の豊かな自然を描く」



透明水彩画家  
しみず めぐみ  
清水 恵

## ■自己紹介

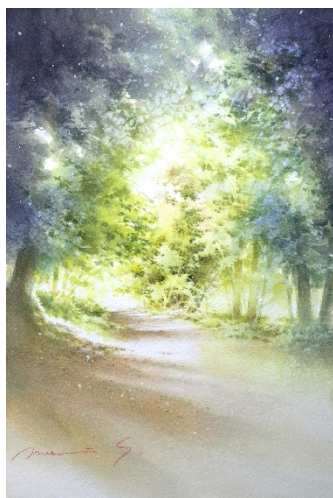
長野県伊那市出身。水彩画講師。日本透明水彩会会員。東京や長野などで年数回、個展やグループ展を開催。社会人になってから水彩画の魅力に取りつかれ、独学で描き続けている。

## ■活動内容

透明水彩絵具を使い、主に風景を描いています。

当初は「小学生が使う手軽な画材」といった印象でしたが、水彩画は描けば描くほど奥深く、油絵のように重厚にも、水墨画のように繊細な作品にもなる、非常に自由度の高い画材だと気づきました。以来、さまざまな技法書などを参考として、自分なりに日々研究を重ねています。

水彩絵具には大きく分けると「透明水彩」と「不透明水彩」の2つがあり、両者の違いを端的に言えば「下に塗った色が透けるか、透けないか」です。透明水彩は下の色が透けるため、基本的に修正はできず、思うように描けなかった時は最初から描き直すことになります。不透明水彩は下の色が透けないので、修正が容易で、しつかり色を塗り込み重厚な作品を描くことができます。



きらきらと輝く木漏れ日

では不透明水彩の方が良いのでは？と思われるかもしれませんが、透明水彩の最大の魅力は何といってもその透明感です。優しく舞う桜、きらきらと輝く木漏れ日、冷たくも暖かい銀世界。私が描きたい世界には、透明

水彩の透明感が欠かせません。

私は幼い頃から信州の豊かな自然に育まれてきました。緑豊かな森林、滔々と流れ落ちる滝、翡翠色に煌めく渓谷、朝日に輝く銀世界。当然のように目にしていたそれらの風景は、環境の変化とともにその姿を変えつつあります。今ある美しい景色は、三十年後、いや十年後には無くなっているかもしれない。森林は伐採され、川は枯れ、雪はもはや絵本の中にしか存在していないかもしれない。今この時代に奇跡的に出会えたこの世界の美しさ、その力強さを、自分が感じたままに自分の色で描き残していきたい。そう願い、今日も絵を描いています。



彩り豊かな秋の溪流

## ■メッセージ

絵を通じて、自然の美しさ、強さ、そして厳しさなどを描き続けていきます。今後はより活動範囲を拡げ、長野県の自然を全国へ伝えていきたいと思っています。



冷たくも暖かい銀世界

今後の展示予定

二〇二五年十二月 ギャラリー銀座

(東京・個展)

二〇二六年四月 丸善丸の内本店

(東京・グループ展)

二〇二六年六月 かんてんばホール

(長野・清水恵水彩教室展)

## ■連絡先

WEBサイトの

コードはこちら↓



Instagramの  
↑ コードはこちら